

学位論文に係る評価基準

研究科	評価基準
文化創造学研究科 (修士課程)	<p>文化創造学研究科の修士論文は、研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に則り、下記の10の観点から評価されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究 当該分野における必要十分な先行研究を検討し、整理して説明できていること。 2. 問題設定および研究設問の設定 先行研究を踏まえて、明確で意義のある問題設定または研究設問の設定をし、学術的独自性と創造性があること。 3. 主張・考察・示唆 先行研究を分析したり、自らで何らかの調査・実践等を行ったりするなど、適切な分析や考察を行い、主張や示唆を導き出すこと。 4. 客観性や根拠 論文の客観性を高めるために、先行研究を分析した上で資料やデータを用いたり、自らのリサーチ結果から根拠を導き出したりしていること。 5. 論理展開 論文全体に論理的連関が欠けていないこと。また、論文としての書式が保たれていること。 6. 論述の明晰さ 読み手を意識して、適切な用語や表現を用いて、分かりやすい文章になっていること。 7. 引用文献、参考文献 引用文献、参考文献が適切かつ統一した方法で明示されていること。 8. 研究能力 当該分野の諸問題について、専門知識に基づいて分析し、その問題に対する解決策を提示していること。 9. 研究倫理 修士論文の内容が、不正行為のない研究活動によって得られた成果に基づいていること。 10. 学位論文最終試験での発表 学位論文の発表としての適切な手順・表現を用いていること。また、聴衆を配慮した分かりやすい発表になっていること。
生活科学研究科 (修士課程)	<p>生活科学研究科における修士論文は、研究科の修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に則り、下記の9つの観点から評価されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究 当該分野における基本的な先行研究を整理して説明していること。 2. 問題設定 明確な問題設定をしていること。 3. 手段 実験、シミュレーションあるいは数理解析など、問題解決に向けて用いた手段についての実施条件、器具、手順等が十分に説明されていること。 4. 進歩性・新規性 修士論文の内容が、先行研究に基づく科学的知見の理解の向上に資すること、従来技術を改善していること、若しくはそれらに準じる科学的進歩をもたらすこと。 5. 記述 各文が、適切な語句を正しく用いて、簡潔に記述されていること。 6. 論理構成 論文全体が、適切な前提条件の下、正しい推論を経て、結論へと導かれていること。 7. 参考文献 参考文献リストが付されていること。本文中で引用箇所が明示されていること。 8. 研究倫理 修士論文の内容が、不正行為のない研究活動によって得られた成果に基づいていること。 9. 学位論文最終試験での発表 学位論文の発表としての適切な手順・表現を用いていること。また、聴衆を配慮した分かりやすい発表になっていること。